

熊本高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	国語II	
科目基礎情報							
科目番号	LK2201			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	人間情報システム工学科			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『改訂版 現代文B』（数研出版）						
担当教員	伊藤 利明,熊本キャンパス 教務係,中島 哲哉						
到達目標							
①論理的な文章（評論）の構成や展開を的確にとらえ、要約することができる。また、筆者の考えに対して、自分の意見を分かりやすく述べる ことができる。 ②文学的な文章（小説・短歌・俳句）に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を分かりやすく述べる ことができる。 ③伝統的な言語文化（古文、漢文）への興味・関心を広く持ち、その特徴を正しく説明することができる。 ④基礎的な日本語表現（書き言葉、敬語の使い方）について正しく理解し、それらを適切に用いることができる。 ⑤高等学校2年生レベル（漢字検定準2級程度）の漢字を読み書きする能力や語彙力を身につけている。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章（評論）の構成や展開を的確にとらえ、要約することができる。また、筆者の考えに対して、自分の意見を分かりやすく述べる ことができる。			論理的な文章（評論）の構成や展開をとらえ、要約することができる。また、筆者の考えに対して、自分の意見を述べることができる。		論理的な文章（評論）の構成や展開をとらえ、要約することができない。また、筆者の考えに対して、自分の意見を述べることができない。	
評価項目2	文学的な文章（小説・短歌・俳句）に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を分かりやすく述べる ことができる。			文学的な文章（小説・短歌・俳句）に描かれた人物やものの見方を読み取り、自分の意見を述べることができる。		文学的な文章（小説・短歌・俳句）に描かれた人物やものの見方を読み取ることができない。また、自分の意見を述べることができない。	
評価項目3	伝統的な言語文化（古文、漢文）への興味・関心を広く持ち、その特徴を正しく説明することができる。			伝統的な言語文化（古文、漢文）への興味・関心を持ち、その特徴を説明することができる。		伝統的な言語文化（古文、漢文）への興味・関心を持つことができない。また、その特徴を説明することができない。	
評価項目4	基礎的な日本語表現（書き言葉、敬語の使い方）について正しく理解し、それらを適切に用いることができる。			基礎的な日本語表現（書き言葉、敬語の使い方）について理解し、それらを用いることができる。		基礎的な日本語表現（書き言葉、敬語の使い方）について理解できない。また、それらを用いることができない。	
評価項目5	高等学校2年生レベル（漢字検定準2級程度）の漢字を読み書きする能力や語彙力を身につけている。			高等学校2年生レベル（漢字検定準2級程度）の漢字を読み書きする能力や語彙力をある程度身につけている。		高等学校2年生レベル（漢字検定準2級程度）の漢字を読み書きする能力や語彙力を身につけていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業では、1年次の「国語Ⅰ」よりも高度な文章（近現代の評論や小説、短歌・俳句、古文、漢文など）を主体的に学ぶことを通して、読解力、論理的思考力、豊かな感性を養う。また、技術者・社会人に求められる日本語運用能力（コミュニケーション能力）を身につけるため、定期的に漢字・語彙力テストを実施するとともに、国語表現分野の学習（レポート作成、プレゼンテーション、敬語の使い方など）もあわせて行う。「国語」はすべての科目の基本となるため、授業には積極的に参加し、課題や演習にも真摯に取り組んでほしい。						
授業の進め方・方法	【授業の進め方と授業内容・方法】 授業は教科書を用いた講義形式を基本とするが、教員との質疑応答や受講者間での意見交流の機会を設けることで、理解や思考を深められるよう配慮する。また、コミュニケーションペーパー（あるいはWebClassのアンケート）に感想や質問を記入してもらい、翌週の授業冒頭でフィードバックすることで、受講生と教員との双方向性を確保する。なお、授業計画は学習状況や受講者の理解度を踏まえて、事前に周知を行ったうえで変更する場合がある。 【成績評価方法】 ①試験（中間・定期）：80% ②小テスト・レポート・演習：20% の割合で算出し、総合評価60%以上を合格とする。 【合格の対象としない欠席条件】 3分の1以上の欠課						
注意点	【準備物】 教科書、ノート、辞書（電子辞書可）、A4クリアファイル（配付資料、返却された小テスト・レポートなどを保管するため） 【受講上の注意点・アドバイスなど】 ①配付されたプリント類を整理すること。 ②必ず予習・復習を行うこと。また、漢字・語彙の学習を継続して行うこと。 ③自分なりの考えや問題意識を持ち、それを積極的に表明しようと努めること。 ④疑問は放置せず、辞書や情報機器で調べたり、教員に質問したりして解決すること。 ⑤授業内容に関連する参考図書を紹介するので、興味・関心を持って触れてみることに。 ⑥「リベラルアーツ」関連科目で学んだこと、身につけた力を積極的に活用すること。 【教員とのコミュニケーション方法】 コミュニケーションペーパー、WebClass、メール（アドレスは別途通知）、直接対話（授業、オフィスアワーなど）						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		

前期	1stQ	1週	前期ガイダンス 評論読解の基礎知識	前期の授業内容について理解し、学習計画・目標を立てることができる。 評論を論理的に読解する方法について理解することができる。
		2週	評論「手の変幻」(清岡卓行)①	文章中に出てくる難解な語句の意味を調べ、理解することができる。 文章を読み、全体の構成や論理の展開を的確にとらえることができる。
		3週	評論「手の変幻」(清岡卓行)②	筆者の主張を正しく読み取り、文章を要約することができる。
		4週	評論「手の変幻」(清岡卓行)③	筆者の主張を批判的に検討し、自分の考えを他者に分かりやすく伝えることができる。
		5週	小説「美神」(三島由紀夫)①※	文章中に出てくる難解な語句の意味を調べ、理解することができる。 文章を読み、全体の構成や場面の展開を的確にとらえることができる。
		6週	小説「美神」(三島由紀夫)②※	文章の描写から登場人物の心情を読み取ることができる。 小説の表現技法とその効果について理解することができる。
		7週	小説「美神」(三島由紀夫)③※	時代背景を踏まえて作品の主題を考察し、自分の考えを他者に分かりやすく伝えることができる。
		8週	中間試験	1～7週までの授業内容を網羅した試験を行い、到達目標に対する達成度を確認する。
	2ndQ	9週	答案返却・解説 古文読解の基礎知識	試験を振り返り、不正解だった箇所はその理由を説明することができる。 古文を読むための基礎知識(文学史など)について理解することができる。
		10週	古文『伊勢物語』①※	文章を読み、登場人物の関係を理解することができる。また、登場人物の心情や人間像をとらえることができる。
		11週	古文『伊勢物語』②※	和歌の修辞技法について理解し、文章中に出てくる和歌を正しく解釈することができる。
		12週	短歌・俳句鑑賞の基礎知識 短歌・俳句①	短歌・俳句を鑑賞するための基礎知識(文学史、表現技法など)について理解することができる。
		13週	短歌・俳句②	短歌・俳句を鑑賞し、その特徴や表現技法・効果について指摘することができる。また、歌意や主題をとらえることができる。
		14週	短歌・俳句③	学習した短歌・俳句の特徴や表現技法を踏まえて、自ら創作することができる。 各自が創作した作品を発表し合い、互いに感想を述べるすることができる。
		15週	定期試験	9～14週までの授業内容を網羅した試験を行い、到達目標に対する達成度を確認する。
		16週	答案返却・解説 前期のまとめ	試験を振り返り、不正解だった箇所はその理由を説明することができる。 前期の授業内容を振り返り、自分の目標到達度を把握することができる。
後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス プレゼンテーションの基礎知識	後期の授業内容について理解し、学習計画・目標を立てることができる。 プレゼンテーションの方法について理解することができる。
		2週	国語表現「プレゼンテーション」	プレゼンテーションによって自分の思いや考えを分かりやすく他者に伝えることができる。
		3週	評論「日本語は非論理的か」(野矢茂樹)①	文章中に出てくる難解な語句の意味を調べ、理解することができる。 文章を読み、全体の構成や論理の展開を的確にとらえることができる。
		4週	評論「日本語は非論理的か」(野矢茂樹)②	筆者の主張を正しく読み取り、文章を要約することができる。
		5週	評論「日本語は非論理的か」(野矢茂樹)③	筆者の主張を批判的に検討し、自分の考えを他者に分かりやすく伝えることができる。
		6週	漢文『論語』①	『論語』に関する基礎知識(文学史など)について理解することができる。 漢文を正しく書き下し文にし、それをもとに現代語訳することができる。
		7週	漢文『論語』②	白文に正しく訓点を施すことができる。 内容を正しく把握し、文章の意味を考えることができる。
		8週	中間試験	1～7週までの授業内容を網羅した試験を行い、到達目標に対する達成度を確認する。
	4thQ	9週	答案返却・解説 国語表現「話し言葉と書き言葉」	試験を振り返り、不正解だった箇所はその理由を説明することができる。 話し言葉と書き言葉の違いを理解し、書き言葉を適切に用いることができる。
		10週	国語表現「敬語の使い方」①	敬語の種類と用法について理解することができる。
		11週	国語表現「敬語の使い方」②	場面に応じた適切な敬語を用いることができる。
		12週	小説「果汁」(小川洋子)①	文章中に出てくる難解な語句の意味を調べ、理解することができる。 文章を読み、全体の構成や場面の展開を的確にとらえることができる。

		13週	小説「果汁」(小川洋子)②	文章の描写から登場人物の心情を読み取ることができる。 小説の表現技法とその効果について理解することができる。
		14週	小説「果汁」(小川洋子)③	時代背景を踏まえて作品の主題を考察し、自分の考えを他者に分かりやすく伝えることができる。
		15週	定期試験	9～14週までの授業内容を網羅した試験を行い、到達目標に対する達成度を確認する。
		16週	答案返却・解説 後期のまとめ 1年間の振り返り	試験を振り返り、不正解だった箇所はその理由を説明することができる。 後期の授業内容を振り返り、自分の目標到達度を把握することができる。 1年間の学びを踏まえて、次年度の目標を立てることができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	2	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	2	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	2	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	2	
				複数の情報を整理・構造化できる。	2	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	

				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	2	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	
				目標の実現に向けて計画ができる。	2	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	2	後7
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	2	後7
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	2	後7
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	後7
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	2	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	2	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	2	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	2	
				企業には社会的責任があることを認識している。	2	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているかを説明できる。	2	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	2	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	2	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	2	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	2	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	2	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	2	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	2	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2	

評価割合			
	試験	小テスト・レポート・演習	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	10	90
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	10	10